

令和5年度 学校評価アンケート集計結果及び分析結果

今年度も、生徒・保護者の皆様には学校評価のアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。集計結果を基に、各分掌・学年で評価分析をいたしましたので、以下の通りお知らせいたします。これを基に学校評議員の皆様からご助言をいただき、次年度の改善に役立て、今後の教育活動に生かしていくように努力して参りますので、今後ともご理解・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

1 回収率

- (1) 中学生 89.8% 保護者 71.7%
- (2) 高校生 1年生 93.3% 2年生 87.0% 3年生 78.6% 保護者 65.0%

2 評価結果及び分析について

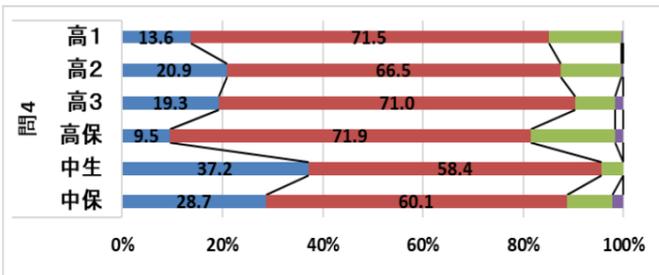
※グラフは左側から、「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の順です。なお、「わからない」の選択肢は、学校独自質問事項のみに設定でき、県立学校共通質問事項には設定できません。

※アンケート問1～3は、学年・組・氏名なので載せておりません。

※問4～20の表中左側の項目は、上から「高1」「高2」「高3」「高保」「中生」「中保」の順です。「中生」は中学生、「中保」は中学校保護者、「高保」は高校保護者のことです。

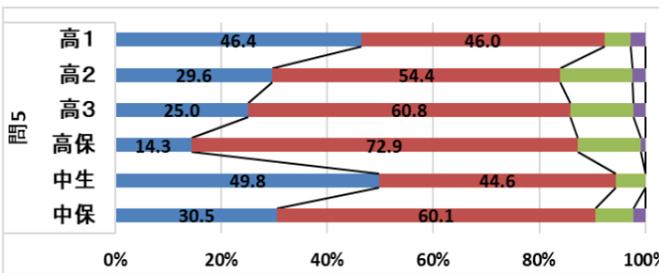
○県立学校共通質問事項

【学習指導（学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている）】



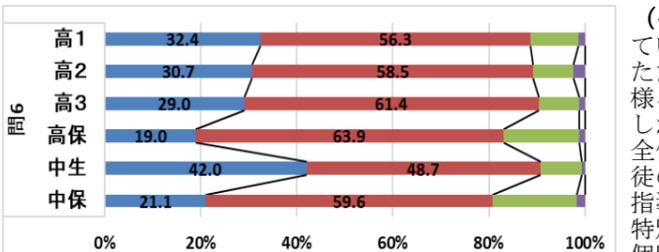
【分析】中・高とも、各学年の生徒および保護者から、概ね肯定的な評価をいただいた。また、過去3ヶ年で比較すると、肯定的な評価の割合が最も高かった。これは、個別最適化に向けた学習がさらに進められ、生徒が自ら課題を設定し主体的に学習に取り組んでいることが理由として考えられる。ただ、生徒と保護者で肯定的な評価の割合に乖離がみられることから、今後は家庭との連携をより一層充実させ、学校の学習における取組を理解してもらえるような手立てを考えていきたい。

【生徒指導（挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている）】



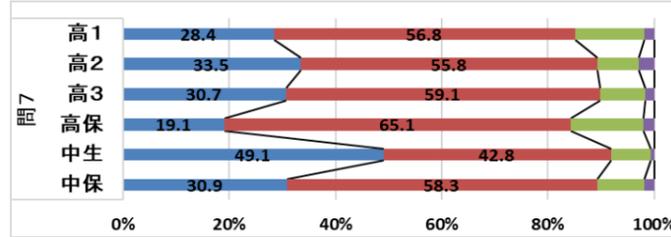
【分析】学年毎に多少の差はあるものの例年並みの評価である。保護者についても同様である。多くの本校生徒が、挨拶を自発的に行っている。ただし言うまでもないが、挨拶を含めて、基本的な生活習慣は各家庭において身につくものであり、学校という「社会」の中でさらに構築するものでもある。今一度、周囲の大人たちが中高生の生活習慣や公共のマナーなどを指導する立場であるということを確認してもらいたい。

【進路指導（進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている）】



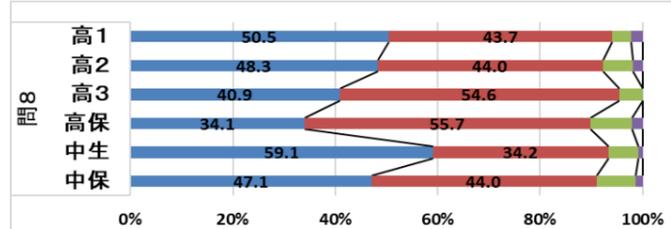
【分析】過去3カ年においては評価が良い傾向になってきている。近年、コロナ禍や新課程入試の内容が不明瞭であったため、入試や将来のビジョンが見えづらかった状況から、様々なことが見え始めたため評価が上昇したと推察される。しかし、学年が上がるに従って評価が低くなる傾向がある。全体的なガイダンスは、予定通りに実施できたが、個々の生徒の志望に関する細部の指導に関しては、クラス担任や個別指導担当者によるところが大きい。特に3年生については、特別選抜への指導に関して、全体ガイダンスでは得られない個別のきめ細やかな指導がなされていることを確認して頂きたい。

【教育相談（教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている）】



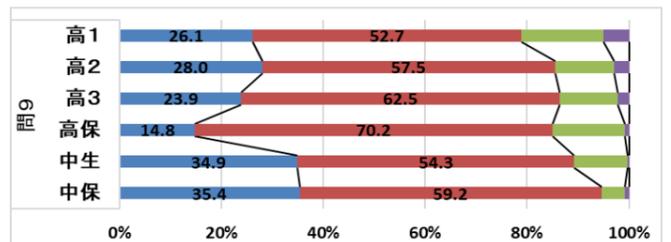
【分析】中学生・高校生、その保護者ともに「よく当てはまる」「大体当てはまる」が80～90%近く、概ね肯定的評価を受けている。相談件数については、特に高校生は増加傾向にあり、積極的に利用している状況である。今後も担当者・養護教諭を中心に学年での情報共有を図り、早期の相談へつなげられるように体制を維持していきたい。

【部活動（学校として、部活動は活発に行われている）】



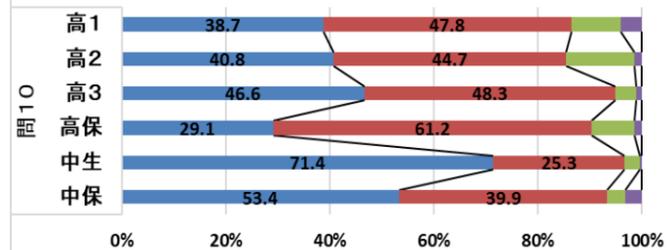
【分析】感染症が第5類に移行したものの従来通りの活動が行える状態になるまでには至っていないことが評価にも表れているのではないかと。その上、学年に関係なく部活動に対する姿勢や取り組み方が少しずつ変化しているかもしれない。部員数の不足により、他校と合同での大会参加が常態化しつつあることも含めて、部活動のあり方について考えていくべきであろう。

【生徒会活動（学校として、生徒会活動は活発に行われている）】



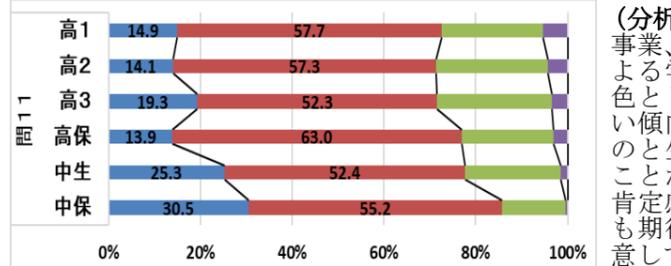
【分析】生徒会活動は、自治的な活動であるので生徒総会の運営を最大の軸にしなが、生徒の主体的な視点でさまざまな項目に対して合意形成を図りながら進めていくものである。生徒会執行部が中心となって、一般の生徒も積極的に参加できる雰囲気を作り出して、生徒会の運営に協力しながら一人一人が意識を高めていけるかが課題である。

【学校行事（有意義な学校行事がある）】



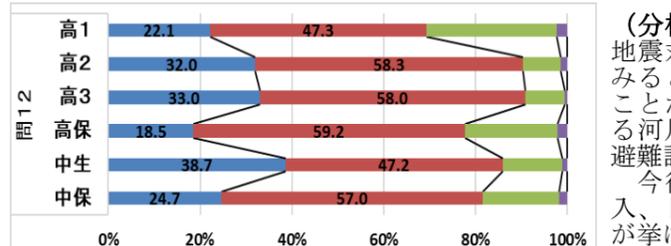
【分析】感染症が第5類に移行し、基本的な感染症対策は講じるものの、ほぼ制限のない形式で各学校行事が計画・実施されたので、生徒からの評価が概ねプラスの評価になったのではないかと。黎明祭の一般公開、球技大会（高校）および体育祭の通常開催を経験して、コロナ禍中には味わうことのできなかつた充実感や達成感を覚えた生徒も多くいたことであろう。その中での成果や反省を次年度に生かして、本来の行事運営を目指していきたい。

【特色ある学校づくり（地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる）】



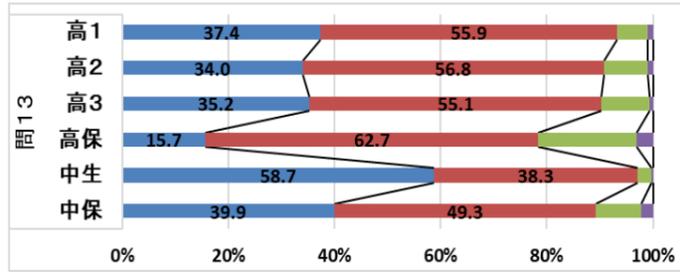
【分析】本校の特色として、学校行事や進路指導に加えてSSH事業、1人1台端末の導入をはじめとするICT機器活用による学習指導などが認知されてきたが、本校ならではの特色として意識している生徒の割合が保護者の割合よりも低い傾向が見える。上記のような特色を、本校ならではのものと生徒自身が認識できるように情報発信を工夫していくことが必要だと認識している。また、生徒の愛校心や自己肯定感を育むことで、これらの特色を特色と認識することも期待できるため、この点に関しても、教育活動の中で留意していくことが大切ではないかと考えられる。

【防災教育（災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている）】



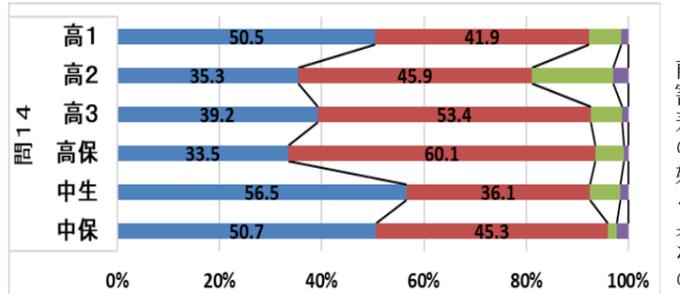
【分析】本年度は、年2回の防災訓練を実施した。6月は地震対応、11月は火災対応である。肯定的評価の数値をみると、全体平均で80%を超えており、概ね良好だったことがうかがえる。また、昨今大きな被害をもたらしている河川の氾濫等による水害対策として、校内における垂直避難訓練を今年度も実施した。今後の課題として、不審者侵入に対する具体的訓練の導入、日常生活の中における防災啓蒙活動の推進という2点が挙げられる。

【開かれた学校づくり（学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている）】



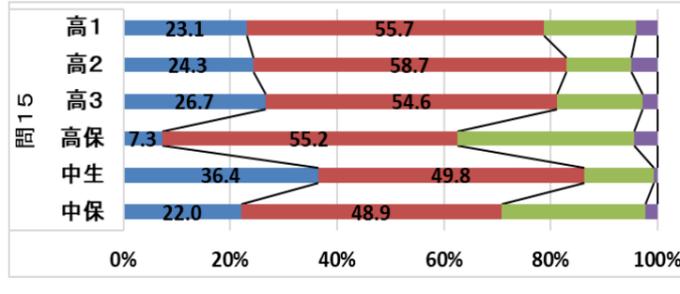
（分析）生徒は中学校・高校ともに90%を超える支持があり、概ね良好な状態であるが、保護者は「よく当てはまる」（青）を見ると、3年連続で減少している。今年からeメッセージになり、学校からの情報提供の頻度は増していると思われるが、学校便り等、学年によっては保護者まで届いていないことがあるようだ。各種便りがeメッセージに統一されれば、保護者がスマートフォンなどで各種便りを見逃すことがなくなるようになるのではないかと考えられるので、教員側・保護者側に利用と案内を促していきたい。

【施設整備（校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている）】



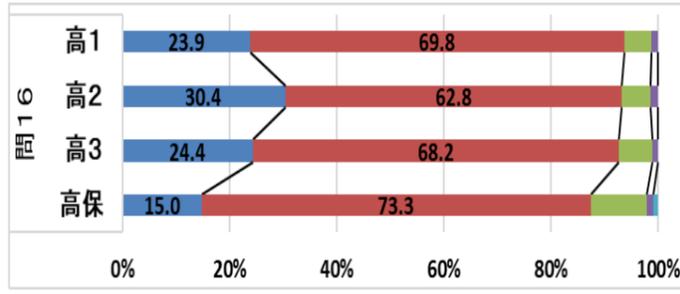
（分析）施設設備については、昨年度とほぼ同様、総じて「当てはまる」の評価結果であった。回答者毎の前年度比較では、高校の生徒の「よく当てはまる」の割合が高くなり、これまでの傾向であった中高の評価差が更に緩和されたと感じている。これは、空調設備の拡充と適切な運用により、猛暑だった夏季も概ね良好な教室環境を確保できたことも一因であると思われる。ただし、一方で経年劣化等により様々な箇所不具合が発生してきており、今後も施設・設備の定期的な点検と計画的な改修整備を行い、安全・安心な施設の維持管理に努めていきたい。

【いじめ対策（学校として、いじめ問題に対して取り組んでいる）】



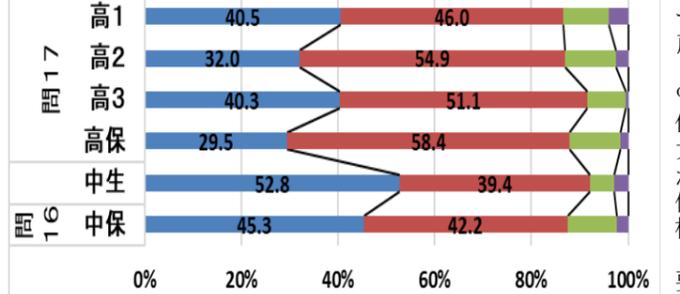
（分析）昨年度より、Microsoft Forms によるアンケートを実施し、実施回数もほぼ月1回のペースで行った。その結果、生徒にとっては「いじめ防止対策推進法」を共有することにより、いじめの定義を定期的に確認する機会が増えて、そのことがいじめの抑止につながっていると感じられる。一方、保護者については、アンケートの実施そのものの周知をして、定期的な取り組みをしていることを理解してもらうように努めたい。

【スクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている】



（分析）今年度から新たに「県共通項目」として加わったものだが、本校では昨年度から試行的に実施し、実質2年目のアンケートとなる。そのせいか、肯定的評価が、高校生全体でR4・63.1→R5・93.2、高校保護者でR4・72.3→R5・88.3と大幅に上がった。スクールポリシーの中の「カリキュラムポリシー」についてある程度認知されてきていると言える。今後も「1年次は共通履修科目の学習をととした基礎力の養成」、「2年次は文理に分かれての専門的・実践的な力の養成」、「探究活動と教科横断的授業の展開」という柱を大事にしながら、適切な教育課程を模索・構築していきたいと考える。

【総合満足度（学校生活は充実している）】

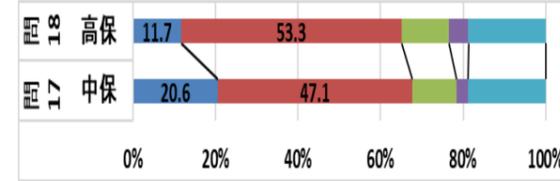


（分析）3年間もの長きにわたって苦しめられたコロナ禍による学校生活も明け、学校生活の大半が以前に戻りつつ昨今、総合満足度の結果が目される。「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」は中学生 92.2%（R4比+1.7）、高校生全体 88.1%（+2.4）、中学保護者 87.5%（-6.4）、高校保護者 87.9%（-2.3）と大変高い評価をいただいた。しかも高校生では、学年が進むにつれて「充実度」が高くなっているのが、学校側としても嬉しい結果である。その一方で、中学校・高校とも保護者の数値が、コロナ過の時よりもわずかながら下がっている点については真摯に受け止め、学校への要望等も踏まえながら分析し、今後の改善に向けて努力していかなければならないと考える。

○ 本校独自質問事項

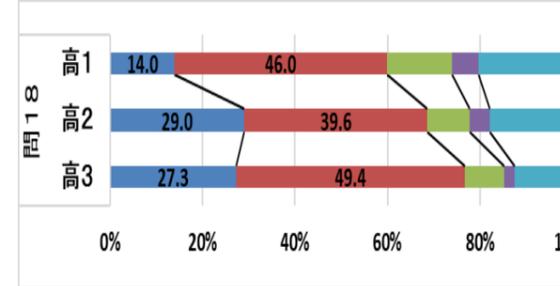
※グラフは左側から、よく当てはまる、だいたい当てはまる、あまり当てはまらない、あてはまらない、わからないです。

【交通安全指導（交通安全指導等の安全指導が十分に行われている）】



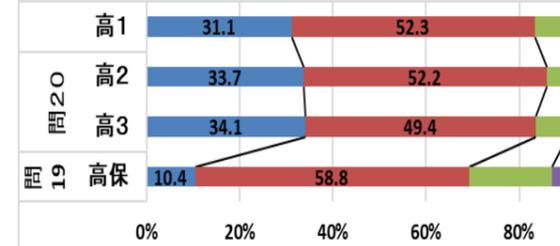
（分析）ほぼ昨年度と同じ評価であった。「全国交通安全運動」期間中に教職員・係生徒での街頭指導を行ってきた。今年度も一般の方からの苦情や指摘を多数受けたが、登下校時における送迎の自家用車による交通渋滞やマナー違反に関するものも多く寄せられている。生徒の安全を第一に考慮した上で、自家用車による送迎については生徒自身ではなく、保護者のマナーアップをいかに図っていくべきか、様々な意見に耳を傾けていきたい。

【課外（長期休業中の課外や平日課外・土曜塾等）は進路達成に役立っている】



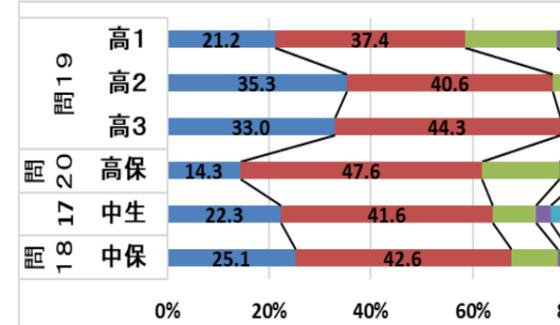
（分析）過去3カ年において、生徒全体からの評価が徐々に良い傾向になってきている。ただし、高校1年生の数字が極端に低かった。高1生は、この数字通りに当初からの土曜塾や夏期課外講習の申込数・参加者共に少ない。本校としては、それぞれの講習の実施目的に従って、「個別最適な学習」を目指しながらも「受講集団に最適な学習」となるような講習を実施してきた。完全なる「個別最適な学習」環境よりも、学習内容の難易の違いを感じながら柔軟かつ根気強く仲間と共に学ぶことが、力強い学力を手に入れることができると信じている。特に高3生の進学課外講習になると、担当教員の解説のスピードも速く、付いていくことが難しくなっていく。学年進行とともに、学習内容とスピードへのレベルアップを進学課外講習を通して養ってほしい。

【進路情報（進路を考える上で必要な情報）が十分に提供されている】



（分析）過去3カ年において生徒からの評価が良い傾向になってきている。2025年度入試からの新課程入試の変更に伴い、外部講師などを招聘してのガイダンスの機会を多く設けてきたためと考えられる。一方で保護者からの評価は変化なく低調であった。保護者説明会などでお伝えする内容について、再度分析・検討していきたい。また、保護者面談時の進路関連の情報提供のあり方など、学年スタッフと連携をとりながら、学年に応じた情報の提供に努めていきたい。

【SSHは、物事を論理的科学的に考える上で役立っている】



（分析）今年度はSSH事業Ⅱ期指定の最終年度にあたる（5年目）。事業の改善は着実に進み、年々課題研究の成果を校外で発表し高く評価される生徒が増加しており、それに伴い進学時にその成果をPRする生徒、大学でさらに研究を続けようとする生徒が増えている。そのため高校2、3年生生徒の肯定的な回答は高いと言える。中学生、高校1年生に対してSSHの成果を実感できるカリキュラム開発が今後の課題であり、その成果が保護者に伝わるように情報発信を効果的に行うことも今後の課題と言える。

※令和5年度の学校評価についての詳しいデータを、今後（3月中旬）学校ホームページに掲載する予定です。どうぞご覧くださいませようご案内申し上げます。